学校番号	1008

令和８年度　総合造形科

教科	総合造形	科目	（学）総合陶芸	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

陶芸分野について、基本から電動ろくろでの作品制作について学習します。
陶芸の技術を学ぶとともに、ひとり一人違う感じ方、考え方も大切にしながら、創造的な表現の喜びを味わいましょう。
他の人の作品や作家の優れた作品など鑑賞しながら、自分だけの見方だけでなく、他の人の見方を知ることで、美術に対する理解を深めましょう。

2　学習の到達目標

陶芸の幅広い活動を通して、陶芸における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の陶芸や陶芸の文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】
　陶芸の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】
　創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】
　生涯にわたり陶芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な陶芸の制作をするために必要な技能を身に着け、意図に応じて制作方法を創意工夫し、表している。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、陶芸の働きなどについて考えるとともに、思いや願いなどから発想や構想を練ったり、陶芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	陶芸の伝統・文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
一学期	陶芸の基礎 土の基礎知識 焼き物ができるまで 装飾と焼成 絵付けと釉薬 窯と焼成 手びねりの成型 ・たまつくりによる小茶碗の制作 ・紐づくりによる茶碗の制作 ・素焼き ・絵付け、施釉 ・窯詰め、焼成 ・仕上げ ・鑑賞、作品レポート作成	a:粘土の性質、釉薬などの色彩が感情にもたらす効果、造形的な特徴などとともに全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 陶芸の制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や道具を生かすとともに手順や技法を吟味し、創造的に表している。 b: 生活を豊かに演出する器や陶器をイメージし、使う人や場所などに求められる機能と美しさの調和を考え制作の構想を練っている。 社会的な視点に立って、皿、小鉢の造形的な良さを感じ取り、作者の心情や意図と陶芸の制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めている。 c: 主体的に社会的な視点に立って使う人や場所から生活を豊かに演出する表現の創造活動に取り組もうとしている。	観察 提出作品 観察 提出作品 ワークシート	提出作品 制作途中の作品 提出作品 製作途中の作品	観察 ワークシート 提出作品 観察 振り返りシート 提出作品
二学期	電動ろくろでの基本制作 ・心出し ・土の「広げ」「締め」 ・形態の成型 ・高台の削り ・窯詰め、素焼き ・絵付け、施釉 ・仕上げ ・鑑賞・制作レポート作成		観察 提出作品	提出作品 振り返りシート	観察 振り返りシート 提出作品
	電動ろくろでの自由制作 ・アイデアスケッチ ・制作 ・鑑賞・制作レポート作成		観察 提出作品 ワークシート	提出作品 振り返りシート	観察 振り返りシート 提出作品
三学期	たたらつくり ・たたらつくりでの皿の制作 ・エンボス装飾 ・窯詰め、素焼き ・絵付け、施釉 ・仕上げ ・鑑賞・制作レポート作成		観察 提出作品	観察 提出作品	観察 振り返りシート 提出作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度